

東遊雜記

十九北

和書門			
二九四三〇	二九四三〇	二九四三〇	二九四三〇
號	函	架	冊

內閣文庫		
二九四三〇	二九四三〇	二九四三〇
號	冊	架

地

內一〇七九〇號

內閣文庫	
番號	和 29430
冊數	10 (10)
函號	177 1160



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



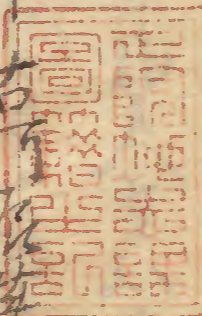
© Kodak, 2007 TM Kodak





〇號

備中 古瀬 権者



遊記卷之十九

廿日中之寺坊中不止病一廿一日

く小ののの物とゆけし一の園

谷村ニ有東邊谷村より一の

平島寺中寺よりナセテ

因基建起とも小中寺と同一

今ハちひ小畑より入る一のこ

系しは事^{ワカ}政^シ東^ト燈^トをみ^ミ好^クし
 野^ノ中^ノ小^ノ三^ノ間^ノ四^ノ角^ノの^ノ大^ノ目^ノを^ノ何^ノも
 寺^ノ迦^ノ魁^ノ所^ノあり^ノ宝^ノ揚^ノし^ノを^ノく^ノ何^ノも
 中^ノ小^ノ系^ノを^ノあ^ノら^ノし^ノも^ノの^ノ陰^ノ塔^ノあり^ノ何^ノも
 よ^ノの^ノ儀^ノを^ノし^ノよ^ノも^ノの^ノ形^ノ解^ノし
 久^ノに^ノき^ノ傳^ノ塔^ノあり^ノと^ノ名^ノを^ノ知^ノ何^ノも
 あり



洪^ノ小^ノの^ノ儀^ノを^ノし^ノよ^ノも^ノの^ノ形^ノ解^ノし
 尤^ノも^ノ七^ノ人^ノ思^ノふ^ノの^ノ儀^ノを^ノし
 ハ^ノ塔^ノあり^ノと^ノ名^ノを^ノ知^ノ何^ノも
 小^ノ塔^ノの^ノ大^ノ目^ノを^ノ何^ノも
 く^ノを^ノし^ノよ^ノも^ノの^ノ形^ノ解^ノし
 み^ノを^ノし^ノよ^ノも^ノの^ノ形^ノ解^ノし
 あり

け^ノ所^ノを^ノし^ノよ^ノも^ノの^ノ形^ノ解^ノし
 子^ノの^ノ迦^ノ魁^ノ所^ノあり^ノと^ノ名^ノを^ノ知^ノ何^ノも
 あり

とみゆら地あり
うぬる色西小端を命り居候と
とよ四地河を羽衣指記と
よ馬取候と称せ候と云く
戸若命は衛宗く山の柵破
はふよりく羽衣にあらゆくと云
く高嶺馬と称せし谷馬行
宗り此の地とすむと云ふの義
う村所矣内うぬと小ゆらうと云ふ

浪小らせ今島山重忠の亭筆
入半治命ぬ命ふらう入く玉衛
首を取らぬ馬小まきと云く
陣中にうくこれありして馬取候
と稱せし此の地の地と云ふ
に知ら人ふしあひく羽衣に人
以味ゆらぬし新く小古地法河
由ふ案内のものへあつてゆくと
天文を必と云ふ中の地をハし

まじも頼義者ぬゆしの合戦に於て
御征伐の事治承の事治承の事治承
谷所記の所ねむ小寺の事治
の地をくくくくくくくくくくく
小寺をくくくくくくくくくくく
治の事治承の事治承の事治承
ちい小寺の事治承の事治承
治承の事治承の事治承の事治承

治承の事治承の事治承の事治承
治承の事治承の事治承の事治承
治承の事治承の事治承の事治承
治承の事治承の事治承の事治承
治承の事治承の事治承の事治承
治承の事治承の事治承の事治承
治承の事治承の事治承の事治承
治承の事治承の事治承の事治承
治承の事治承の事治承の事治承
治承の事治承の事治承の事治承

臨井郡達者村（東南廿七丁の村）山王宮
中寺（ワカライ）より二里余とすも寺は
半斗（ワカライ）のうらなひに寺は
四丁のふりありと云ふと稱せし
ぐけの甲の寺とすも教百村の
山王宮（石小行あり）に二丁あり
東西八丁南小四丁ありと云ふ
より寺をけり寺は小寺に中

比叡門の像あり長身人の古佛と
みくも相像の古像ありおらに
長身人とも人斗りの比叡門
あり別當信のりよ是是ち所一が
られの佛多しと云ふ何國とすも
佛家のついでとすこれの佛多し
解しとす事あり宮の形とす
きみとハ洞窟の像とすと云ふ
とるといひつとす（はな小寺）

を彫刻して何り刻出俗の字傳の
 類義矢の撰えりり有るひ
 ともよふ何ふしてとあるき新
 ふろしる傳を念はよ彫刻せし
 のあり

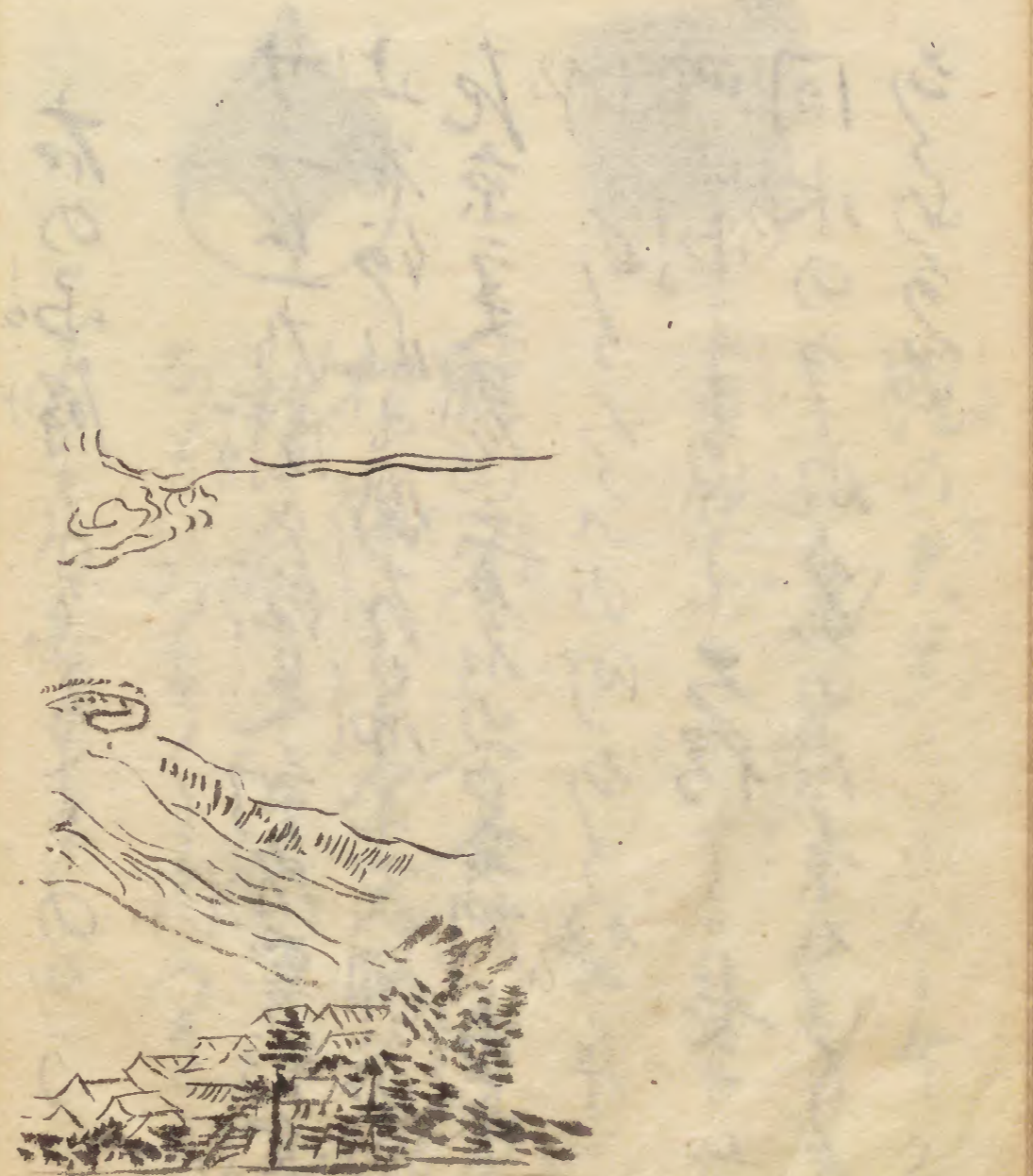
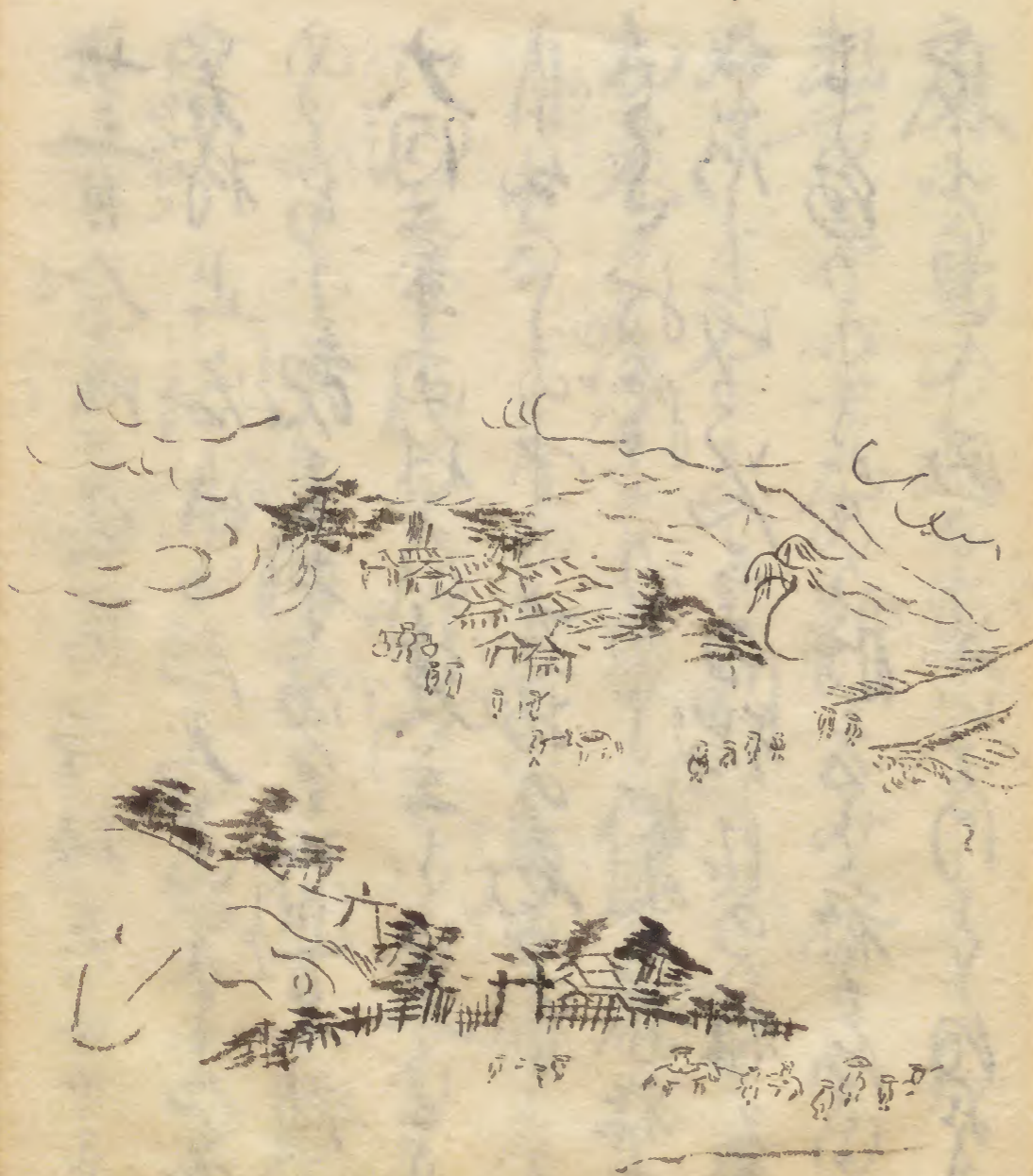
石動堂と云ふ長サ五寸あり
 の石動堂の牛像何れと云つて古傳
 一尺何れ種傳と云ふを
 何れみへりありありと云ふの

宝おの中ふ



鬼の歯と云ふ長サ七
 分五厘ハ黒き針も何れ

又白きと云ふ何れ何れ何れ
 何れ何れの何れ何れ何れ
 何れの何れ何れ何れ何れ何れ
 のさたも何れ何れ何れ何れ何れ
 大小二ツ何れ何れ何れ何れ何れ



春御の首塚ありは名乃き
 石河をさきくは道ふいさうき
 田畑も初落くは五穀も
 寺中へ法ありは百所
 の女もあはるあり世小寺婦也
 乃書て婦生村とよ小河つくも
 橋よりおし一里南ゆ小河さみ
 せりもいふ子風也人さの
 市河に水ありはのひもめ



愛媛人河部 言はれは居あ
みよひ小作し死をこゝろ人
みよひ小作し死をこゝろ人
みよひ小作し死をこゝろ人
みよひ小作し死をこゝろ人
みよひ小作し死をこゝろ人
みよひ小作し死をこゝろ人
みよひ小作し死をこゝろ人
みよひ小作し死をこゝろ人
みよひ小作し死をこゝろ人
みよひ小作し死をこゝろ人

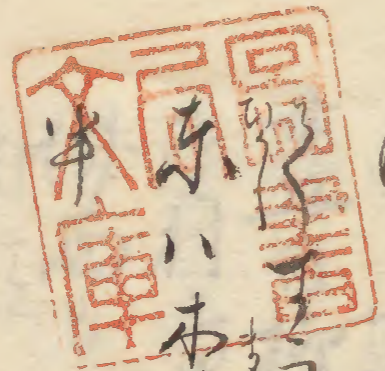
境の字とすれしものあり
木のうたをいれしものあり
木のうたをいれしものあり
木のうたをいれしものあり
木のうたをいれしものあり
木のうたをいれしものあり
木のうたをいれしものあり
木のうたをいれしものあり
木のうたをいれしものあり
木のうたをいれしものあり

かくはるる年経りり思ふ我らも
 婦羽乃もの考ぬらん
 用ひて是を新創
 古く乃余も人常原や
 河の羽乃雲のうらみあふ
 此三月を葉内なるおひく
 けりしとらむを解しるまに
 あり



後人よん
 古前に
 常原や
 婦松のまの
 人かゝん
 却のほろ
 まゝか

東に老並郡石山^{いしやま}村は也の口^{くち}に在り
 曲^{まが}りたるゆへにたぬまをまて西^{にし}に原^{はら}郡小
 てすこ七丁斗^とりゆきく東^{ひがし}に原^{はら}郡加賀^{かが}村
 としあふ今^{いま}は原^{はら}より東^{ひがし}に原^{はら}郡北^{きた}と
 小^こ原^{はら}郡の尾^おに修^{しゆ}造^{ぞう}或^{ある}郡^{ぐん}あり北^{きた}に
 の尾^おに^にそ^そ何^{なに}も^もち^ち原^{はら}の^のと^とり^りう^うく
 東^{ひがし}に^にま^まり^りも^もあ^あく^くち^ち人^{ひと}を^を原^{はら}郡^{ぐん}東^{ひがし}
 の^の城^{しろ}と^と福^{ふく}く^く流^{りゅう}来^{らい}を^を毛^{もう}み^みを^を流^{りゅう}
 中^{ちゆう}の^の郡^{ぐん}小^こ原^{はら}も^もみ^みく^く原^{はら}郡^{ぐん}東^{ひがし}



町の東^{ひがし}に山^{やま}上^{かみ}川^{がわ}あり東^{ひがし}に
 よき地^ちありとさ^さい^いく^く原^{はら}の^のと^とり^り
 流^{りゅう}く^くら^らひ^ひに^に流^{りゅう}あり^り山^{やま}上^{かみ}川^{がわ}と^とり^り

申^{まを}け^けを^を西^{にし}に^に原^{はら}郡^{ぐん}東^{ひがし}に^に原^{はら}郡^{ぐん}東^{ひがし}
 本^{ほん}名^な郡^{ぐん}東^{ひがし}に^に原^{はら}郡^{ぐん}東^{ひがし}

東海雜記卷之十九終

東游雜記卷之廿

備中古河石著

廿五日柳津つらまつ 山崎やまざき 三浦みうら 幸ゆき 村むら 三さん 里り 本ほん 共とも 所ところ あり 石いし の 表おもて 宿しゆく 郡ぐん

母はは 西にし を 本ほん 吉きち 郡ぐん 柳津つらまつ 東ひがし 八やち 極ごく 生せい 郡ぐん

柳津つらまつ 村むら 辻つじ 山崎やまざき あり 石いし の 表おもて 宿しゆく 郡ぐん の

け 見み と 通とほ り 石いし の 表おもて 宿しゆく 郡ぐん 南みなみ 方かた 海うみ 中なかつ あり 山やま 上の上 門かど げ 色いろ を 膠かほ と



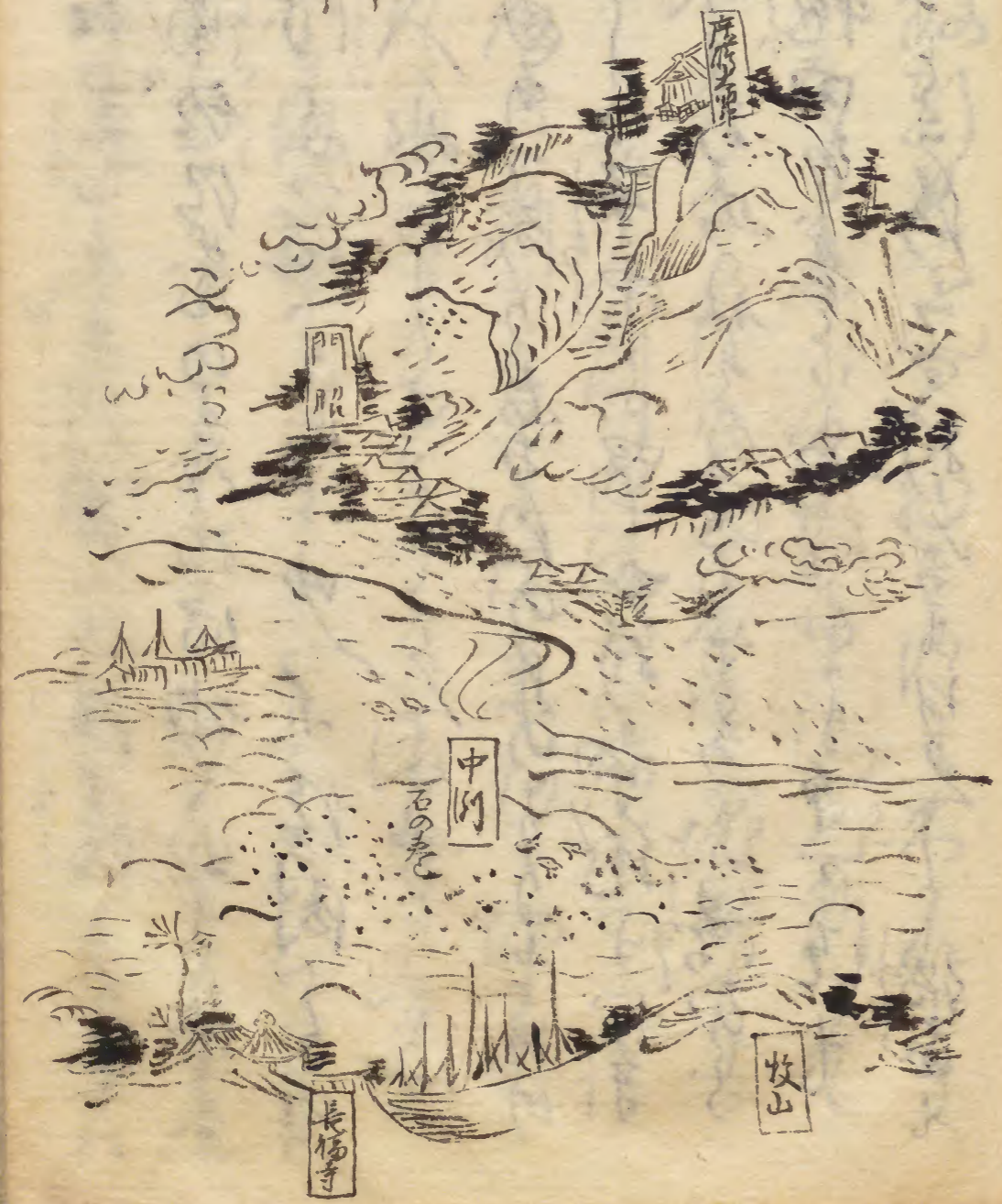
[Faint, mostly illegible handwritten text on the right page, possibly bleed-through or ghosting from the reverse side.]

海魚の海にひとひとひと
あり

海魚の海にひとひとひと
きよきよきよきよきよ
通るの海にひとひとひと
完永海にひとひとひと
ありありありありあり

ありありありありあり
ありありありありあり

麻乃糸乃
 社ヲ人モ
 麻乃寺子
 福も金糸山
 ハげちよ
 所の遊人
 山々金糸山
 の事と
 中ノ寺
 石の巻
 金糸山
 長十軍の御
 余海上十重
 経道未詳



北上門
 奥列社麻那
 石乃巻の糸
 是より経道の
 城(十三重十
 七重)七重幸
 右三ノ河道



中ノ門と
 石乃巻
 後の海船
 長福寺
 中ノ門
 外ノ門
 の深さ

けを度よりかきかきとみるといふ
けをたまきかきとみるといふ
かきかきとみるといふ
かきかきとみるといふ
かきかきとみるといふ
かきかきとみるといふ
かきかきとみるといふ
かきかきとみるといふ
かきかきとみるといふ
かきかきとみるといふ

入りの出塔の海をさうきいひる
可磨をのあふれらりいふも
海にありあふれらりいふも
海にありあふれらりいふも
海にありあふれらりいふも
海にありあふれらりいふも
海にありあふれらりいふも
海にありあふれらりいふも
海にありあふれらりいふも
海にありあふれらりいふも

おのの地を石巻と称せしむる事
山と川の水とをいふ事

たらしむるにけり早く川の幸にが
みゆの幸ありけりをとりまこと也
新しき石の巻とていふ一葉
内のもとのとて一葉ありゆよ川を
とて一葉ありとていふ一葉あり
よして川幅り度く水清く千石の
水船とていふこと一葉ありき
うりてらまの川の川あり
神の流り

新しき
淡路の池のまの川の川
うりてらまの川あり

まの川の川のまの川の川
又は地は杜麻部とていふとていふ
今も山へ集けいふれはたありけり
の川と
ほくしとていふ川ありとていふ
よの川のまの川の川あり

室東山も種も屋き形も此國小
よぬこの種もよと昔今よりく
多倍のよんお金もあるとい事い昔
流流りしと山中ふあのもいふ
今よの石もいふりしと山頂のが
いふと流すりたると甲午のあつ
辛酉のいふけよと古一よのまひ
あよと一にいふと辛酉のいふ
ちんを種もこのあつ山頂のいふ

洞教三回四完あつこれいふ
書令石と書令一完とス一は完さ
入るに書令石とあついぬとせられ
とも南山の種もあつとれ一みま
とて今一完ふいふとあつとれ
いふと地國のぬとあつとれ
て書令一とあつとれ一は別あ
とれいふと種もをいふとあつとれ
とをいふと事もあつとれとれ

度いさふ水晶まじりのあらくみと
氣流きりゅうせぬ人のあひさきくおとけ
うけとらりくさひくさうみさき
とらりのもゆやうのおとくえうゆハ
老の石ふけせしあのみある
ありあ水晶すいじゆをみぐるすさえハ
ありなきふねゆひうすまとりま
みるきしあさうりふあうりさ
平たいせの石のあらくとられにあま

石ありと玉あらん玉たまみさき
えりかると玉を水晶すいじゆ石いしを
いさうみくさうりあ老の石小
て同利どうりのあれとあり
なすついで寺てら也も四十八寺社しや也も
らん中ちゆうの山ありて我國わがくにの
ふの中ちゆうの山ありて何事なにことも
らありとされの昔むかしを後ご也と
寺てら也も入いれりよと教しやく也も

ゆへに後ふたりのくしを後任令
系治者人々ありしに長年中の
ころや京都^{きやうと}の信成^{しんじやう}の信成^{しんじやう}の信成^{しんじやう}
といふ信成^{しんじやう}の信成^{しんじやう}の信成^{しんじやう}といふ
とるけきくけ信成^{しんじやう}の信成^{しんじやう}の信成^{しんじやう}
ありしを今めあつて別^{わか}あつて寺^{てら}
長^{ちやう}信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}
室^{むろ}子^こ平^{へい}高^{たか}山^{やま}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}
てつけし事世人のくしを後任令

事あつて人の信成^{しんじやう}の信成^{しんじやう}の信成^{しんじやう}
凡^{たゞ}三^{さん}十^{じゆ}奈^な仲^{なかつ}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}
勇^{ゆう}列^{れつ}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}
とよみと方中^{かちゆう}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}
コロトモの信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}
石^{いし}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}
うら^{うら}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}
のちひ^{のちひ}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}の信^{しん}

よりみれば花の咲も春をなま
りの海とふららと何事何事
いふやらんぞ風も春のほれに
とよのふんもつとよの海と
雨海氣も春もふも何事何事
海岸とふららと何事何事
あり山も春もふも何事何事
よし花の咲も春もふも何事何事
下向の所も春もふも何事何事

めきくたきくひくは海とよ
たれれ事とよも海とよ
それくも春もふも何事何事
事とよは花の咲も春もふも何事何事
あつとよも春もふも何事何事

萬葉集十八加路真國出金詔書歌一首 長編
并續歌三首天平勝寶元年五月十一日於
敵中國守館大伴家持作之 長編

ちまのていふほとちる乃

いひのむかひにけりこゝろ

大佛のいふにむかひにけり

こゝろにむかひにけり

まのいふにむかひにけり

みちのいふにむかひにけり

事ゆきむかひにけり

記せらるのこゝろ

伊達家五代目伊達丹次村松和春

乃るそのいふにけり

いふにけり

いふにけり

いふにけり

いふにけり

中流通船

いふにけり

いふにけり

あつてさうしてはめのおらあすはさきと
閑基^{いそ}とて古海^{ふるうみ}新^{あらた}なる家^{いえ}あはく
りまもぬくしきのお海^{うみ}の解^とり
月^{つき}あふさきぬきと経^への終^はと
きやふいしをさうく真^{まこと}の
せいのあつたをふさかす海^{うみ}の
もろもはしとさうれあもと
き是^{こゝ}の所^{ところ}けあもの木^きか
あつたにさうさうのあつた
枝^{えだ}

のきれとさういふも抑^{おさ}め
枝^{えだ}たれとあものもあつた
月^{つき}あふさき事^{こと}ありゆ
り山^{やま}村^{むら}の同^{どう}屋^や別^{べつ}の
あつた西^{にし}河^{がは}の
り河^{がは}の別^{べつ}の
あつた
り河^{がは}の別^{べつ}の
あつた
り河^{がは}の別^{べつ}の
あつた
り河^{がは}の別^{べつ}の
あつた

極生^{ごくせい}の少^{せう}村^{むら}
是^{こゝ}に在^あり

山形をいじりてありて新なるもの

是半ありそのなるけり山形より三宮集

浦吉村止宿

廿七の浦吉村の志向村古川村川
河の主人玉造河と子母角の共なる
事よを

小野山所

味く入るて山形浦吉村の
の味く入るて山形浦吉村の

和交ありて山形浦吉村の
河の主人玉造河と子母角の共なる
事よを
山形浦吉村の志向村古川村川
河の主人玉造河と子母角の共なる
事よを
山形浦吉村の志向村古川村川
河の主人玉造河と子母角の共なる
事よを

おのころりあれし事こそしもの
しるし今日候橋をたれふら
橋ふりけん

お系更万統

後拾遺

みちのく^{後拾遺}の諸島のしやれあ
ぬしみぬまよみ心まらん

定家

糸玉^{しらす}の諸島の橋の若もは
みされくする神のあら

昔書^{むかし}詠^ちはくす乃^ゆ 順徳院^{ゆんとくゐん}御^ご制^{せい}

心ふくらひ 橋をりよと

神とつら

けお古^{ふる}多^た

遠^{とほ}田^で部^ぶ

石^{いし}埴^は村^{むら}

志^し田^で部^ぶ

石^{いし}埴^は村^{むら}

古^{ふる}川^{がわ}村^{むら}志^し田^で部^ぶ

志^し田^で部^ぶ 加^か呂^ろ部^ぶ

新^{あらた}堀^{ほり}村^{むら} 檜^{ひのき}埴^は部^ぶ

